自治研
お悩み相談室

自治研の活動レポートを増やす秘訣はないでしょうか？

回答　自治研マイスター

二年に一回の全国版「自治研集会」や、各県本部などが実施する集会などでは、レポート発表を元に議論がなされる場合が多いようです。実際、二〇一四年に佐賀県佐賀市で行われた全国自治研集会でも、三〇〇本近いレポート・論文が、全国から集まりました（自治研ホームページで紹介中です）。

そうしたレポート・論文を対象として、自治研賞が設けられています。自治研賞は、故・栗山益夫元自治労委員長のご遺族の寄附金を契機に、自治労本部ならびに関係団体からの寄附金で基金を創設し、その運用益をもって二年に一度開かれる自治研全国集会の際に、表彰を行っています。『月刊自治研』誌上において、四月から過去に受賞された活動のその後の展開を紹介する「自治研賞受賞プロジェクトはいま」という連載も始まりましたので、ぜひご覧ください。

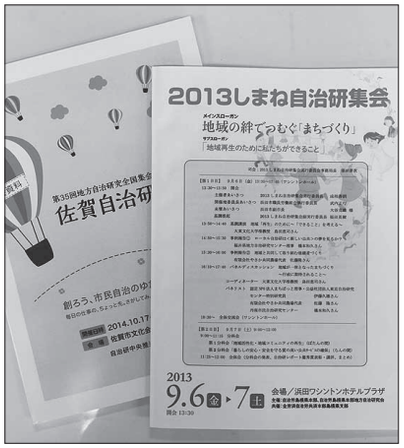
さてレポートについてですが、数を増やすことそれ自体が重要ではないでしょうが、レポートを書いてもらうことは、自らの活動を振り返ったり、次のステップに進むきっかけになるという点では、有効なツールになると思います。

しかし、いきなり「レポートを書いて」と依頼しても、難しいことと捉えられるでしょう。まずは機関誌などで各単組の活動記事を掲載するとか、短い報告を書いてもらうとか、気軽な活動紹介の場を作ることがあげられます。加えて、日頃からの声掛け、掘り起し活動が非常に重要になります。「その活動はすばらしいから機関誌の記事にしたい」、「〇〇市の施策はユニークなので紹介したい」などと、組織内外を問わずに気軽に呼び掛けを行ってみてはどうでしょうか。

印刷物の発行には予算も必要ですが、HPやブログ・フェイスブックなどのSNSを利用すれば、費用はぐんと抑えられます。そうした日常的に集めた記事・報告をもとにして、写真や資料を加え改めてレポートを書いてもらうことで、しきいを低くすることができます。ぜひ域内の多くの活動を掘り起し、全国の仲間と共有していきましょう。

事例

「一単組一取り組み」を県本部・各単組の方針に



——島根県本部における自治研レポートの取り組み状況を教えてください。

二年に一度「しまね自治研」集会を開催しており、そこには毎回二〇～二五本程度のレポートが寄せられています。しかしこれまで全国自治研集会には、しまね自治研での審査を経て優秀賞などを獲得した数本のみを提出してきました。全国集会に多くの組合員が参加できれば良いのですが、なかなかそうもいかないので、前回の佐賀自治研からしまね自治研に提出されたすべてのレポートを提出することで「島根からより多くの組合員が参加している」という形にしたいと考え、全二三本を提出することにしました。

——二三本は全国で三番目の数です！どのような呼びかけをしていますか？

島根県本部では自治研活動について「一単組一取り組み」を運動方針に明記し、各単組での取り組みを促しています。またこの「一単組一取り組み」を各単組においても方針化してもらい、各単組における自治研担当者の設置、活動するための予算付けを依頼しています。

具体的な活動方法がわからないとの相談があるので、県本部主催による学習会、オルグ単組やブロック単位での学習会などを開催、ヒントを提供しています。

——「一単組一取り組み」とは具体的でいいですね。今後のレポートへの期待は？

業務改善取り組みレポートが多いですが、「労働組合としてどう関わってきたのか」という観点が不足気味かなと感じています。また、市町村合併以降、組合員間のつながりが希薄化していることや組合役員の担い手不足などから、地域との連携や社会問題に対しての取り組みは十分とは言えません。今後は労働組合の横のつながりを生かした自治研運動の展開と全単組のレポート提出を期待しています。「地方創生は私たち自身が取り組んでいくんだ！」という気概を持つためにも、自治研活動が組合員にとって大きな刺激になり、新たな気づきを生み、結果としてそれを「良好な公共サービス」につなげていけたらと思います。

（回答者：島根県本部自治研中央推進委員小林　剛さん）